

## 第2次川崎市情報化基本計画等策定

# ユビキタス社会、試金石

## ハード重視からソフト重視へ 宮前区は町内会・自治会HP開設等を推進



現在運営中の稗原団地自治会HP

川崎市は12日、様々な人やモノがあらゆる場面でつながるユビキタス社会の到来に向けて、06年度から向こう10年程度を見据えた「第2次川崎市情報化基本計画」を策定した。これは、ITによる情報共有・活用・利用を推進しようとするもので、特に早期の取組が求められる施策に関しては「情報化実施計画」を取りまとめ、3年を目途に重点的に着手する予定だ。

この中で実施計画には、区ごとに異なる地域特性を考慮して、各区独自の施策

が設けられている。宮前区では、7月開設予定の「宮前区地域ポータルサイト事業」とともに、各町内会・自治会等のホームページ(以下HP)開設の推進を図り、地域の情報共有を進めたいとしている。

### ITによる地域交流は可能か

「HPを開設・運用するにはそれ相応の人材を自治会組織内に確保しておく必要がある。HPを通じた地域住民の交流には少し時間がかかるのではないか」。そう語るのは、昨年12月に稗原団地自治会HPを開設した同自治会副会長の板津昌且さん。「行政によるHPの立ち上げ支援はありがたいが、

IT教育が伴わなければ砂上に楼閣を建てるようなものです」。これに対し区は、講習会等を開催し、HPの基本的な作成方法や個人情報

報を含めた管理方法をサポートしていく計画だ。

区内でインターネット・パソコンスクールを経営する下西ノ園信明さんは「5・6年前に行政が始めた無料パソコン教室の影響で生徒数は激減した。今回も派遣会社などに講師を依頼するのなら、私たちを含め地域の人材を活用してほしい」と話す。現在のところ区では、2つのモデル地区を設定し、HPを試験的に開設する予定。講習会にはボランティアスタッフが起用し、順調なら区全域に展開、そして将来的には、各町内会・自治会HPと宮前区地域ポータルサイトの連携を図りたいとしている。

IT社会の趨勢もハード重視からソフト重視へ、個人重視から交流・協働重視へ―今後の行政の取り組みが注目される。